

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-122776

(43)Date of publication of application : 17.05.1996

(51)Int.Cl.

G02F 1/1335

F21V 8/00

G02B 6/00

(21)Application number : 06-257988

(71)Applicant : SEIKO EPSON CORP

(22)Date of filing : 24.10.1994

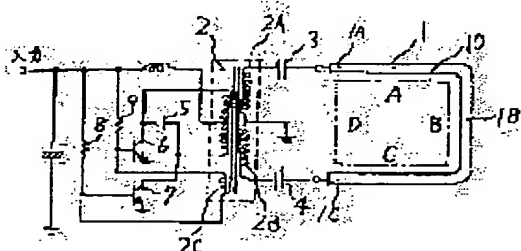
(72)Inventor : NAKAJIMA HIROTOSHI

(54) BACKLIGHT FOR LIQUID CRYSTAL TELEVISION

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a backlight for a liquid crystal television reduced in the radiation noise of a backlight inverter, high in efficiency, more uniform in luminance distribution and suitable for a large screen.

CONSTITUTION: This backlight is constituted of a fluorescent tube 1 having such a shape that a tube terminal part 1A is in an opposite direction to a tube central part 1B like a U-shape or a square U-shape, and a backlight inverter where the secondary winding of a boosting transformer 2 is divided to two winding parts 2A and 2B whose midpoint is connected to the ground and ballast capacitors 3 and 4 are provided at both ends. Then, high voltage having different polarity is impressed on both terminals of the fluorescent tube.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 24.05.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 24.09.2003

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration] withdrawal

[Date of final disposal for application] 06.11.2003

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平 8 - 1 2 2 7 7 6

(43)公開日 平成8年(1996)5月17日

(51)Int. Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 2 F	1/1335	5 3 0		
F 2 1 V	8/00	D		
G 0 2 B	6/00	3 3 1		

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L

(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平6-257988

(22)出願日 平成6年(1994)10月24日

(71)出願人 000002369

セイコーエプソン株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目4番1号

(72)発明者 中嶋 博敏

長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコー

エプソン株式会社内

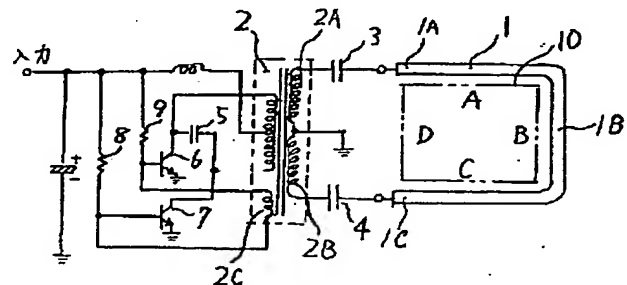
(74)代理人 弁理士 鈴木 喜三郎 (外1名)

(54)【発明の名称】液晶テレビ用バックライト

(57)【要約】

【目的】 バックライトインバータの放射ノイズが小さく、高効率で、輝度分布がより均一な大画面に適した液晶テレビ用バックライトを提供する。

【構成】 U字型やコの字型等のように管端末部1aが管中央部1bと反対方向となる形状の蛍光管1と、昇圧トランス2の二次巻線が2つの巻線部2a、2bに分割され中点がグラウンドに接続され両端にバラストコンデンサ3、4を設けたバックライトインバータとで構成し、蛍光管の両端子に極性の異なる高電圧を印加する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも蛍光管と、蛍光管駆動用のバックライトインバータを有し、前記蛍光管はU字型やコの字型のように管端部1A、1Cが管中央部1bと反対方向となる形状の蛍光管1であり、前記バックライトインバータは自励発振式インバータで昇圧トランス2の二次巻線が2つの巻線部2a、2bに分割され中点がグランドに接続されると共に両端にバラストコンデンサ3、4を設けた構成のインバータであり、蛍光管の両端子にはそれぞれ極性の異なる高電圧を印加することを特徴とする液晶テレビ用バックライト。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は液晶テレビ用バックライトに関し、画面サイズが比較的大きい液晶テレビに用いて、画面輝度を均一化し、ノイズの低減を図るための蛍光管とインバータの構成に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、液晶テレビ用のバックライトインバータとしては、図3に示すような自励発振式のインバータを用いている。昇圧トランス12の二次側は一方がグランドに接続されており、蛍光管11の両端子は一方がグランドに、もう一方はバラストコンデンサ13を介して高電圧側に接続されている。このような構成で5インチ以上の液晶テレビ用蛍光管を点灯する場合には、管長が長いため、昇圧トランス12の出力電圧は4000～5000V_{pp}もの高電圧が必要である。また駆動周波数は一般に20KHz～80KHzの範囲が使用される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような構成の液晶テレビ用バックライトでは、以下の問題点が生じてくる。

【0004】①高電圧で同波数が高いため、リークが大きく、蛍光管の輝度は図4に示す様に蛍光管の高電圧側が最も明るく、グランド側で暗くなる。図3において蛍光管11の輝度は11a、11b、11cと暗くなってしまうのである。従って表示エリア14で、A部はC部より明るく、B部とD部ではB部がずっと明るいという具合に輝度ムラが生じてしまう。

【0005】②高電圧のため、放射電磁波が大きくなり、パネルとバックライト間に透明ネサ膜付フィルム等によるシールドが必要となる。このため構造が簡素化しにくい。

【0006】③高電圧のため、放電しやすく、高電圧部配線パターンと他の部品やパターンとのスキマを大きくする必要があり、スペース効率が悪い。

【0007】④高電圧、高周波による昇圧トランス巻線内の容量結合によるリークが大きく、また蛍光管が長い場合蛍光管と他部品とのリークも大きくなり、効率が悪くなる。

【0008】本発明はこのような問題を改善することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明による液晶テレビ用バックライトは、少なくとも蛍光管と、蛍光管駆動用のバックライトインバータを有し、前記蛍光管はU字型やコの字型のように管端部が管中央部と反対方向となる形状の蛍光管であり、前記バックライトインバータは自励発振式インバータで昇圧トランスの二次巻線が2つの巻線部2a、2bに分割され中点がグランドに接続されると共に両端にバラストコンデンサを設けた構成のインバータであり、蛍光管の両端子にはそれぞれ極性の異なる高電圧を印加することを特徴とする。

【0010】

【実施例】第1図は本発明の一実施例を示すインバータと蛍光管の構成図である。蛍光管1はU字またはコの字の形状をしており、管の端子部1a、1bと管中央部1bは反対の方向となっている。

【0011】インバータは、昇圧トランス2と、バラストコンデンサ3及び4とトランジスタ6、7のコレクタ結合コンデンサ5により発振周波数が決まる自励発振式のインバータである。昇圧トランスの二次巻線は2つの巻線部2a、2bに分割され中点がグランドに接続されると共に両端にバラストコンデンサを設けた構成のインバータである。図1のトランジスタのベース抵抗8、9は昇圧トランスのフィードバック巻線2cを3端子とすることで1本にすることもできる。蛍光管の両端子には極性の異なる値の等しい高電圧が印加される。

【0012】このようなインバータと蛍光管の組み合わせによるバックライトでは、図2に示すように管の両端はそれぞれ同じ輝度で明るくなり、管の中央部が仮想グランドの電位となるため、輝度は暗くなる。従って、図1において蛍光管の端部1aと1cは同じ輝度となり、1bはより暗くなる。これは表示エリア10のA部とC部の明るさが近似してくることを意味し、またコの字型蛍光管を使用した従来のインバータによる駆動に比べ、B部とD部の輝度差が少なくなってくる。

【0013】蛍光管をコの字型にすることはできないので、コの字またはU字型として使うことになるが、実際の組立ではコの字型蛍光管は導光板と組み合わせてエッジライト方式として薄型バックライトに使用し、U字型は拡散板の下面に配置して反射板と共に使用するタイプのバックライトに使用するが、構造が異なっても本発明の目的と効果は変わらない。

【0014】従来より、トランスの二次側巻線を分割して、複数の電圧を作ったり、1個のトランスで複数の部品の電源にすることは行なわれているが、本発明はトランスと蛍光管の組み合わせで、従来にない効果を実現したものである。

【0015】本発明の効果を最大限に生かすためには、

3

トランスの分割巻線のインダクタンスを揃えることと、昇圧トランスから蛍光管端子までの配線長が大きく異ならないように構造、配置を工夫することである。

【0016】

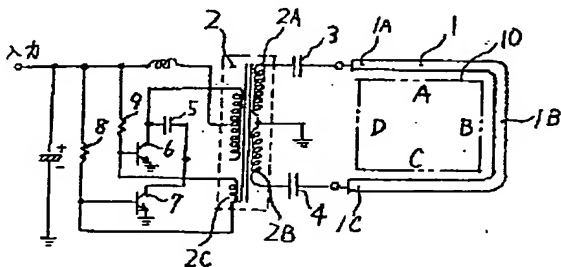
【発明の効果】本発明ではこのように蛍光管の形状とインバータの組み合わせで次のような効果が実現できる。

【0017】①バックライトの輝度ムラが改善できる。

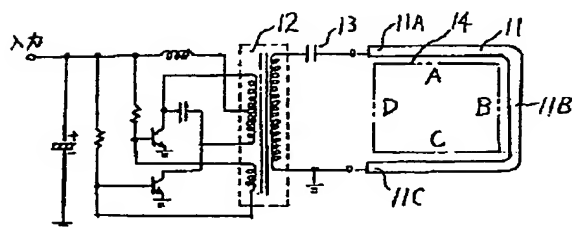
【0018】②トランスのグランド基準のピーク電圧が、同サイズの蛍光管では半分ですむため、放射電磁波ノイズが小さくなり、従来必要だったパネルとバックライト間の透明ネサ膜付フィルム等のシールド部材が不要となり、構造が簡素化される。

【0019】③高電圧配線パターンと他の部品やパターンとのスキマを従来より小さくすることができスペース効率が上がる。

【図1】



【図3】



4

【0020】④高電圧によるリークが少なくなり、昇圧トランスの効率が上がる。また昇圧トランスの小型、薄型化が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示すインバータと蛍光管の構成図。

【図2】本発明の構成による蛍光管の輝度分布図。

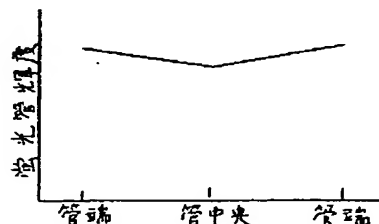
【図3】従来のインバータと蛍光管の構成図。

【図4】従来の構成による蛍光管の輝度分布図。

【符号の説明】

1. 蛍光管
2. 昇圧トランス
3. バラストコンデンサ
4. バラストコンデンサ

【図2】



【図4】

